

Editor's Choice

今月の編集部オススのソフト&ハード

今月のオススは、33.6Kbpsモデムを内蔵し、カラーモニターを搭載したモバイル機器「INTER Top」、対応プロバイダーも増えてきたロックウェル社が提唱するK56flex対応の56Kbpsモデム「MS56KEF」、アナログポートとST端子をそれぞれ2つずつ搭載するDSU「COMSTARZ DSU A2」、フレームなどもページ全体を見ながらWYSIWYGで作成できるホームページ作成ソフト「VISUAL PAGE 1.0 for Macintosh」、地上波TV放送の隙間を使ったコンテンツ配信サービス「ビットキャスト」が受信できるTVチューナーボード「GV-BCTV/PCI」、光学10倍ズーム機能を持ち、画像をフロッピーに保存できるデジタルカメラ「MVC-FD7」だ。

このコーナーの見方



読者プレゼント

このマークが付いた商品を、読者の皆さまにプレゼント&商品モニターとして提供いたします。詳しくは202ページをご覧ください。



商品モニター



付録のCD-ROMに収録

今月のラインナップ

33.6Kモデム内蔵のA5サイズのモバイル機器
INTER Top

(P263)



富士通株式会社

バージョンアップも容易な56Kbpsモデム
MS56KEF

(P264)



サン電子株式会社

アナログポート、S/T端子を搭載したDSU
COMSTARZ DSU A2

(P265)



日本電気株式会社

レイアウトも思いのままのホームページ作成ソフト
VISUAL PAGE 1.0 for Macintosh

(P266)



株式会社シマンテック

テレビ電波でHTML情報が受信できる
GV-BCTV/PCI

(P267)



株式会社アイ・オー・データ機器

フロッピーに画像を保存できるデジタルカメラ
MVC-FD7

(P268)



ソニー株式会社



33.6Kbpsモデム内蔵のA5サイズのモバイル機器

インタートップ

INTER Top

ここがスゴイ!

- ① A5サイズと小型ながら、十分に実用レベルのキーボード
- ② ペン入力も可能で、ディスプレイも裏返せる
- ③ パソコンとデータをやり取りできる

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]

インタートップは、オアシスポケットシリーズ(オアポケ)の携帯性を受け継ぐ携帯情報端末だ。A5サイズ(210×149.5×29mm)で750gという携帯性のよさは、使う場所を選ばない。組み込みソフトとしてカレンダー、スケジュール、ToDoリスト、住所録、マネーシート、世界時計、手書きメモ、3万語の英和辞典、WWWブラウザ、メールソフト、通信ソフト(端末エミュレータ)、FAXソフト、PCとデータを送受信するためのソフトなどを備えている。

▶ フル充電で2.5～3時間

CPUはPC/AT互換の486SX相当の処理能力で、キー入力もペン操作もキビキビと動作する。4MバイトのRAMと6Mバイトのコンパクトフラッシュメモリーを備え、このコンパクトフラッシュメモリーにはシステムも収まっており、そのうち2Mバイトをユーザーが利用できるが、自由に拡張できるカードにはなっていない。もちろん、PCMCIAのカードスロットを1つ備えているので、PCカードタイプのメモリーを使うことはできる。ハンディービデオカメラ用のリチウムイオンバッテリーを使い、2.5～3時間のフル充電で2.5～3時間稼動する。

試用レポート

▶ ペン入力もOK

インタートップにはパームレストがないので、電車の中などの振動がある場所でのキーボード利用はきわめて不安定だ。ディスプレイが重く、開いた角度によっては、安定した場所でないといくくり返る可能性がある。特に電車の揺れが激しかったり、人の立ち座りで席が揺れるとぐらついたりする。画面はバックライト付きで、常時点灯しているため薄暗い喫茶店のような場所でも不自由しない。逆に、明るい部屋ではタッチパネル表面への照明の映り込みが大きくて目が疲れる。また、画面から発生するノイズ音が、静かな部屋では少々耳障りだった。

電車の中では、ディスプレイを裏返してペンタッチスタイルで使えばいいだろう。こうするとキーボード類がロックされ、押されても入力が動かなくなってペン操作に集中できる。このペンは、メニュー

操作を行うために使ったり、グラフィックソフトでのポインティングデバイスとして使ったりするが、手書き文字入力はサポートしていない。また、バックスペースキーの真上に配置されている電源キーは数秒間押し続けると電源が落ちないようにしている。

▶ WWWブラウザはHTML2.0まで

インターネットへは内蔵モデム(33.6Kbps)や携帯電話用PCカードなどで簡単に接続できる。WWWブラウザはカラー表示だが、HTML2.0に相当するタグまでしかサポートしていないので、フレームやJavaなどを使ったページを完全に表示することはできない。メールはPOP、SMTP対応、MIMEサポートでファイルを添付することもできる。インタートップはMS-DOSバージョン6.2をROMに収めるが、フルスペックでないので要注意。DOSソフトやドライバーが使えるかもしれないが、保証はされていない。DOS用のドライバーだとしてもインタートップで使えるとは限らない。

▶ パソコンやザウルスとの連携も

付属CD-ROMのファイル転送ソフトTranXitを使うと、ウィンドウズマシンとの間でファイルやデータをやりとりできる。このCD-ROMにはザウルスと連携してデータを送受信するソフトも収められている。マック版はないのでウィンドウズユーザー向きといえる。パソコンとの連携はウィンドウズCEマシンほどよくない。

こうしてみると、パソコンと連携させるより、スタンドアロンで使う携帯端末と割り切ったほうが大胆に使いそう。キー入力ができないと困るという人が、インターネットにアクセス可能な携帯情報端末を選ぶとするならばバランスがとれたマシンだと思う。通勤途中にWWWのニュースページに目を通すマシンを選べといわれたら、私はこのインタートップを選ぶだろう。(菊地宏明)



① JIS配列と親指キーボード配列の2種類があるキーボードはキーピッチ15mmでキー入力も楽に行える。7.2型DSTNカラー液晶ディスプレイは640×480ドット256色の表示が可能。



② ディスプレイを360度回転させてペンタッチスタイルでも使用できる。



③ 本体右側面。左から、RS-232Eポート、ACアダプタージャック、モデムポート。PCカードスロットは本体左側面に搭載。

INTER Top

- 発売元 富士通株式会社
- 価格 128,000円
- 問い合わせ 0120-89-4321
- 付属品 ACアダプター、リチウムイオンバッテリーパック、モジュラーケーブル
- URL <http://www.intertop.ne.jp/index.html>



バージョンアップも容易な56Kbpsモデム

エムエス56ケーイーエフ

MS56KEF

ここがスゴイ!

- ①バージョンアップが容易な設計
- ②サポートプロバイダーも増加

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



④付属CD-ROMにはネットスケープ3.01Jや通信ソフトのほか、ウィンドウズ95/NT、Apple Remote Access用のCCLファイルも入っており、初心者でも簡単に扱える。

各社から相次いでK56flexモデムが発売される中、モデムメーカーとしてはおなじみのサン電子から、56Kモデムが発売された。現在2つの56Kモデム規格、x2とK56flexが競を削っているが、どうやら各メーカーの動向をみるとK56flexへの流れができてきているようだ。そんな、K56flexの代表としてMS56KEFをレポートしてみたい。

▶ K56flexとは?

K56flexは、本誌7月号で紹介したUSロボティックスのSP560V-Pのx2テクノロジー同様、サーバー側でISDN回線を利用することにより、下り速度、つまりサーバーからユーザーへのデータの流れを56Kbpsにまで高める技術だ。ISDNの回線速度は64Kbpsだから、理想的な状態は64Kbpsだが、実際には受ける側はアナログ回線なのでノイズなどの影響を受けて56Kbpsになる。なお、上り方向は、x2同様33.6Kbpsとなっている。

▶ 書き換え可能なモデム

K56flexは、世界的な通信規格を定めるITU-Tでは勧告されていない。来年には正式に勧告されると思われるが、その際規格の微妙な調整や変更がないとも限らない。そんな事態に対応するには、モデムを制御するファームウェアの書き換えができることが望ましい。MS56KEFでは、ファームウェアだけでなく、モデムチップもロックウェル社のダウンロードタイプ(内部プログラムが書き換えられる)のICを使っているので安心できる。

試用レポート

▶ 実際には50Kbpsが最大?

いち早くK56flexに対応したInfoSphereのアクセスポイントを利用してテストした。まず気になったのは接続速度だ。時間帯も変えて接続してみたが、ISDN回線とつながったAterm IT55のアナログポートにMS56KEFを接続した状態では必ず50Kbpsで接続できたのに、アナログ回線だと46Kbpsでしか接続できなかったことだ。これは、

USロボティックスのSP560V-Pでも同じだった。もちろん、サーバー側のモデムの事情もあるだろうし、改善される可能性はあるものの、56Kbpsではつながらないと思ったほうがよさそうだ。

▶ FTPでは圧縮機能がカギ

50Kbpsで接続した状態からFTPでファイルをダウンロードして実効速度を計った。テキストファイルと圧縮されたバイナリーファイルの2種類を対象に、MS56KEFの56K接続(実際には50Kbps)に加えて、追加設定でMS56KEFの接続速度を33.6Kbpsに制限した値、Aterm IT55を使ってISDNの同期64Kbpsで接続した値、また参考に筆者が常用するRT102i(ヤマハ製のダイヤルアップルーター)を使ったマルチリンクPPP(128Kbps)の値も調べてみたのが下の表だ。

はっきりと分かることは、テキストファイルでは56Kbps接続時に9.1Kバイト/秒と、ISDN同期64Kbpsを上回る速度を出していることだ。これは、MS56KEFがV.42bisによるデータ圧縮機能を持っているため、その効果が現れやすいテキストファイルで特に顕著だ。一方、圧縮効果が期待できないバイナリーファイルでは4.6Kバイト/秒と伸び悩みが見てとれる。圧縮効果がないISDNではコンスタントに7.6Kバイト/秒前後の値が出ているのと好対照といえるだろう。

▶ 広がるプロバイダーのサポート

K56flexのサポートを表明するプロバイダーが日に日に増えつつある現状では、これからモデムを買うのならMS56KEFなどのK56flexモデムがいいだろう。価格もぐんと下がっている。何よりも、買ってくるだけですぐに最高速の通信が使えるようになる簡便さは、ISDNにはない利点だ。

(梅垣まさひろ)

FTPによるダウンロード速度テスト(10回の平均値、バイト/秒)

| ファイル | テキスト(109,200バイト) | バイナリー(132,285バイト) |
|-------------------------|------------------|-------------------|
| MS56KEF connect50000bps | 9,107 | 4,550 |
| MS56KEF 33.6Kbps | 8,360 | 3,190 |
| Aterm IT55 64Kbps | 7,742 | 7,631 |
| 参考 RT102i 128Kbps(MP) | 14,130 | 14,136 |

MS56KEF

- 発売元 サン電子株式会社
- 価格 32,800円
- 問い合わせ 0120-863810
- 付属品 RS-232Cケーブル、変換アダプター、ACアダプター、モジュラーケーブル
- URL <http://www.sun-denshi.co.jp/>



アナログポート、S/T端子を搭載したDSU

コムスターズ ディーエスユー エー2

COMSTARZ DSU A2

ここがスゴイ!

- ① DSUなのに多機能なアナログポート付き
- ② パソコンがなくてもISDNが使える

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

DSU付きのターミナルアダプター(TA)は数々あれど、アナログポート付きのDSUというのは珍しい。DSU内蔵TAとの違いは、パソコンと接続するシリアルポートが付いていないということだけだ。といってもS/T端子は備えているので、TAを用意すれば、もちろんパソコンにも接続できる。「アナログポートがたくさん欲しい」、「電話とパソコンの部屋が離れている」といったユーザーには魅力ある製品だ。

▶ 2つずつのアナログポートと S/T端子は利用価値十分

たとえば、アナログポートが2つあるTAを使っているでしょう。電話機とFAXをつないでしまうと、それだけで2つのアナログポートが埋まってしまう。TAのアナログポートに二股ソケットで電話機をつなぐことはできないから、アナログポートを増やすには、TAをもう1台買うか、このCOMSTARZ DSU A2を使うかということになる。

また、モジュラージャックがリビングルームにしかなくて、電話やファックスはそこに、パソコンは寝室に置きたいという場合。こんなときでもリビングにCOMSTARZ DSU A2を置けば、電話などはモジュラーケーブルでリビングに置けるし、寝室のパソコン(TA)へもISDN用ケーブルを1本引くだけで接続できる。しかもS/T端子は2つ付いているので、DSUなしのカード型TAを使うノートパソコンユーザーにも使いやすいし、将来のTA増設にも対応できる。

COMSTARZ DSU A2は、グローバル着信や電話番号通知、フレックスホンなどのISDNの機能がアナログ電話機から設定できるため、パソコンから設定する必要がない。

試用レポート

▶ 電話機からの設定は、やや面倒だが

電話機のボタンだけで設定するわけだから、ある程度の面倒は我慢するしかないが、ダイヤルインの設定にしろフレックスホンにしろ、たいいてい設定は最初だけなので、なんとかなるだろう。マニュアルにはかなり詳しく設定事例が紹介されてい

るし、日常的に使用と思われる操作に関しては「操作早わかりガイド」が添付されているので、ヒモでも付けて電話機の側にぶら下げておけばいい。また「クイックセットアップマニュアル」も初心者にも配慮してわかりやすく書かれているので安心だ。

▶ 手堅くまとめられているアナログ機能

グローバル着信機能でダイヤルイン料金を1つ節約する機能はもちろん、フレックスホンの4つのサービスであるコールウェイティング、通話中転送、三者通話、着信転送などには対応している。また、NTTとの契約をしなくても利用できる簡易三者通話、簡易コールウェイティング、簡易着信転送など、COMSTARZ DSU A2だけで実現している機能もあり、最近のTAでサポートされている機能はおおむね網羅されているといっていいただろう。DSUに付属したTA機能だからといって、機能が少ないということは決してない。

▶ DSUとしての付加機能がほしい

アナログ専用TAとしては、満足できる性能なのだが、DSUとして見たときにやや不満が残る。まず何とんでも見逃せないのは停電対策だ。COMSTARZ DSU A2には停電対策がなく、局側給電でも動かない。停電・災害時対策としてNTTのデジタル電話機S-1000などを導入していても、肝心のDSUが動かないのではどうにもならない。DSUはISDN回線の要となる部分であるだけに、ぜひともTA以上の停電対策がほしい。また、OCNエコノミーなどに乗り換えたときに使いまわしができないのも残念だ。

▶ INSネット64ライトの出現で進むISDN化

7月7日から「INSネット64ライト」の提供が開始された。これまでの「INSネット64」と異なって施設設置負担金(72,000円)が不要になったため、通常の電話を引く代わりに利用するといった需要もますます増えてくるものと思われる。そういった場合、COMSTARZ DSU A2のような「アナログ専用TA」機能を使いたいというニーズも確実に増加してくるものと思われる。今後ますます注目される製品だ。(梅垣まさひろ)



① 135(W) × 185(D) × 38(H)mmの本体。壁掛け用のネジが付属するので壁に設置できる。もちろん、寝かせたままでも使える。



② 本体下部。左から、アース(上) ACアダプター(下)、電話端子1、電話端子2、オプションポート、S/T端子1、S/T端子2、極性反転スイッチ(上)、ISDN端子(下)。

COMSTARZ DSU A2

- 発売元 日本電気株式会社
- 価格 39,800円
- 問い合わせ 0120-498563
- 付属品 モジュラーケーブル、ACアダプター
- URL <http://www.nec.co.jp/japanese/product/kiban/densow/comstarz/prod/dsua2/index.html>



レイアウトも思いのままのホームページ作成ソフト

ビジュアルページ 1.0

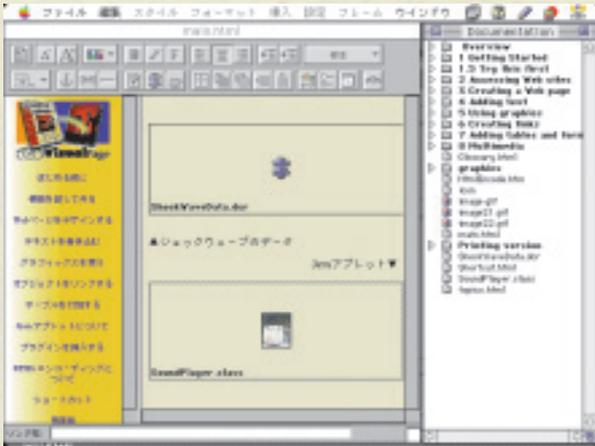
VISUAL PAGE 1.0 for Macintosh

ここがスゴイ!

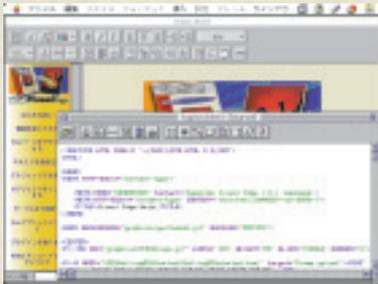
- ① HTML3.2をサポートし、プラグインやJavaも扱うことができる
- ② きれいに字下げされたHTMLを生成し、エディターでの編集もしやすい
- ③ 今ならキャンペーン価格の11,000円で購入できる

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]



- ① プラグインやJavaアプレットもサポートし、プレビューモードで貼り付けた位置やサイズを確認できる。



- ① 作成されたHTMLファイルは読みやすいコードになっている。フレームはフローティングがなく、水平、垂直にしか配置できない。

VISUAL PAGE 1.0 for Macintoshはマッキントッシュ用のホームページ作成ソフトだ。2万円前後の普及価格に設定された製品は、アドビのページミル、クラリスのホームページと、機能や価格で真っ向から競合する。プログラミング言語などの開発環境に力を注ぐシマンテックが満を持して発売する自信作といえる。

▶ HTML 3.2 をサポート

WYSIWYG形式でホームページを作成するソフトは、HTMLの知識がなくても手早くHTMLファイルを作成できる。ソフトを選ぶときのポイントは、サポートするHTMLタグの種類と作成しやすさで、VISUAL PAGEはフォントスタイルや文字の揃え、画像の貼り込みやハイパーリンクはもちろん、テーブル、フォーム、フレームなどのHTML3.2タグをサポートし、プラグインやJavaアプレットも扱うことができる。

▶ テキストエディターでのHTML編集にも配慮

ホームページ作成が上達してくると、HTMLファイルをテキストエディターで直接修正することもあるが、ホームページ作成ソフトが生成するHTMLは字下げが行われていないなどの原因で読みにくいことが多かった。その点、VISUAL PAGEはテキストでの作成・編集にも配慮し、字下げされた読みやすいHTMLを生成する。もし手書きでVISUAL PAGEに理解不能なタグが加えられると、その部分を不可視項目としてタグのアイコンを表示する。もちろん不可視項目を表示させないこともできる。また、英語製品の日本語版でしばしば問題となるテキストのエンコードについては、Shift-JIS、JIS (ISO 2022)、EUC、UTF-8の4種類の漢字コードをサポートしている。

試用レポート

▶ 表の作成も簡単

テーブル機能はホームページ作成ソフトによって使い心地が大きく異なるが、VISUAL PAGEは使いやすく操作性がよい。はじめに表全体の大きさを決め、セルに内容を入力していくだけ。マウスカーソルでセル枠をつかんで大きさも変えられる。セル同士の結合はないが、行や列の追加と削除はできる。

▶ マックのPICTファイルは自動変換

画像の貼り付けも簡単で、レイアウト中のページの好きな位置にドラッグ&ドロップするだけで。マッキントッシュ独自のファイル形式のPICT画像は自動的にインターレースGIF形式に変換される。背景の透明化やクリックブルマップをGIFファイルで作成するには、グラフィックウィンドウ内で作業する。また、プラグインで表示させるデータも画像のように貼り付けられる。表示モードではその位置に枠を表示するだけなのだが、ブラウザでプレビューするとその内容が現われる。同様にページ内にムービー、Javaアプレット、Javaスクリプトを貼り付けることもできる。

▶ FTP機能で簡単アップデート

ホームページはHTMLや画像など、いくつものファイルで構成されるが、それらをまとめて管理するのがサイトウィンドウ機能だ。これは指定したフォルダーにファイルを集めることで効率のよい作業ができる機能で、指定フォルダー内のファイルはサイトウィンドウに表示され、ドラッグ&ドロップでの貼り付けや、画像をグラフィックウィンドウに表示させることができる。また、FTPでサーバーにアップロードする機能も備えているので、個人のホームページならFTPソフトを使わなくても、これだけで十分メンテナンスができるだろう。

後発の製品として、競合製品の欠点をよく研究して勝るとも劣らない機能を備えた製品に仕上げ、さらに開発ツールとしての配慮も忘れていないところにVISUAL PAGEのよさがある。(菊地宏明)

VISUAL PAGE 1.0 for Macintosh

- 発売元** 株式会社シマンテック
- 価格** 24,800円(当店はキャンペーン価格11,000円)
- 問い合わせ** 03-3476-1156
- 動作環境** マッキントッシュ(システム漢字Talk7.1以上、68030以上のプロセッサ)
- URL** <http://www.symantec.co.jp/products/svp/index.html>



TV電波でHTML情報が受信できる

ジーブイ ビーシーティーブイ/ピーシーアイ

GV-BCTV/PCI

ここがスゴイ!

- ① WWW情報を受信するのに電話代がかからない。
- ② テレビ番組と連動した情報をパソコンで得られる
- ③ TVチューナーが入っているため、パソコン上でTVも見られる

おすすめ度

- [ユニークさ]
- [コストパフォーマンス]
- [使いやすさ]
- [期待度]
- [総合]

ブッシュテクノロジーを、TV放送の電波を使って行うビットキャスト対応のTVチューナーカードが発売された。このシステムを利用すれば、TV放送から送られてくるHTMLページをパソコンで見ることができる。スピードも最大40Kbpsを実現し、文字だけでなくグラフィックも送られてくる。もっとも便利なのは、TV番組と連動した各種のWWW情報を無料で見られることだろう。

▶ ビットキャストって何?

ビットキャスト(インフォシティ社が開発)は、普通のTV放送を使ったデータ放送のシステムだ。このシステムでは、TV放送で使用されていないVBI(Vertical Blanking Intervals = 垂直回帰線消去期間)にHTMLの情報を入れ込んでユーザーの端末に送られる。つまり、パソコンでビットキャストをサポートしていれば、自動的にTV局から送られてくるHTMLの情報を蓄積して、見たいときに見ることが可能になる。

ビットキャストのメリットは、TV放送の電波を利用しているためダイヤルアップのインターネットと違って、電話代がかからないということだ。ビットキャストが受信できるTVチューナーボードとソフトさえあればOKだ。さらに、詳しい情報を取り寄せたいときには、自動的にダイヤルアップを行ってインターネットに接続することもできる。

ビットキャスト自体にも、問題がないわけではない。ビットキャストは、TV放送のアナログ信号を使用しているため、電波の弱い地域では受信できないこともある。さらに、受信ミスをしても自動的にエラー修正ができない(一方的に送ってくるだけ)ので、同じデータを間隔を空けて何度も流さないとエラーのない送信ができない。

試用レポート

▶ インストールは簡単

今回使用したビットキャスト用のTVチューナーは、ビットキャスト専用というわけではなく、パソコン上でTVを見られるようにするTVチューナー機能、ビデオキャプチャー機能、文字放送機能などもサポートされている。このため、ビットキャスト

ではパソコン上でTV番組を見ながらインターネットの情報を表示することも可能になっている。カードのインストール自体は、PCIパスカードのため非常に簡単で、特殊な設定は必要ない(IRQを1つ使用する)。また、パソコン上でTV画面の表示にはマイクロソフト社のダイレクトXのオーバーレイ機能を利用している。

ビットキャスト用のソフトはCD-ROMに入っているが、インターネット・エクスプローラ3.02をカスタマイズして使用するため、ネットスケープ・ナビゲーターなどでは使用できない。ビットキャストブラウザを起動して、ビットキャストのデータ放送を行っているTVチャンネルに合わせておかなければデータがパソコンにダウンロードされないが、将来的にはIE4.0にも対応していく予定なので、Activeデスクトップに自動的にTV放送からの情報を蓄積して表示させることができるようになる。

▶ ビットキャストの普及にはサービスの拡充が必要

TBSが7月1日からテスト放送を始め、10月からは本放送を開始する予定だ。現在は、TV番組の予告編やTBSが行っているイベントの情報などが送られてくるだけで、TV番組と連動したサービスとはなっていない。このあたりは、まだテスト放送だからだろう。TBSやビットキャストの開発元のインフォシティ社では、将来的にはソフトのダウンロードサービスも行いたいと考えているようだ。

ビットキャストの問題点は、現在はTBSでしかサービスが行われていないため、東京近郊でしかサービスを受けることができないところだ。今後、多くのTV局がビットキャストのサービスを開始して、より多くの情報が提供されれば、ビットキャストのメリットもよく分かるようになるだろう。やはり、どれだけ多くの役立つ情報がビットキャストで送られてくるかということと、全国でサービスが受けられるようになること。この2つができないと、ビットキャストは本格的に普及はしないだろう。

(山本雅史)



① VBIを利用した文字放送にも対応しているGV-BCTV/PCI。ボードサイズは106.7 x 216.5mm。



① ビットキャストの受信画面。左上はTV放送の画面で、通常のTV電波の隙間を利用してHTML情報が配信される。



② 配信されたHTMLのコンテンツは画面下(ビットマーク)に表示され、ハードディスクに蓄積される。

GV-BCTV/PCI

- 発売元 株式会社アイ・オー・データ機器
- 価格 34,800円
- 問い合わせ 076-260-1024
- 動作環境 メモリー16M以上、ペンティアム100MHz以上のPCIバス搭載機(DOS/V、PC-9821シリーズ)
- URL <http://www.iodata.co.jp/products/video/gvvcv.htm>



フロッピーに画像を保存できるデジタルカメラ

エムブイシー エフディー7

デジタルマビカ MVC-FD7

ここがスゴイ!

- ① 10倍ズーム+オートフォーカス(AF)の迫力ある画像
- ② 3.5インチフロッピーなのでデータ転送が楽
- ③ 90分の連続撮影が可能なスタミナ設計

おすすめ度

[ユニークさ]
[コストパフォーマンス]
[使いやすさ]
[期待度]
[総合]



① 3.5インチフロッピー記録なのでボディはでかいが、データ転送は楽。



② 2.5型と大型の液晶モニターを搭載。なお、バッテリーや充電器は別売だ。



③ 10倍ズームならではの迫力画像。高速シャッターが切れるスポーツモードで撮影。



④ レンズ直前までピントが合うが、ズームの中間域がもっとも撮影倍率が高い。

ソニーから撮影した静止画を3.5インチフロッピーディスクに記録するデジタルカメラ、Digital Mavicaが発売された。47mm相当の単焦点レンズモデルMVC-FD5(63,000円)と10倍ズーム搭載のMVC-FD7(88,000円)の2機種で、どちらも2.5型の大液晶モニターを内蔵。連続撮影時間は最大で約90分で、撮影枚数にして約500枚のスタミナ仕様も魅力だ。

▶ 3.5インチフロッピーなので取り込みが簡単

ほとんどのデジタルカメラは、撮影した画像をパソコンに取り込む際にシリアル転送で、あるいはPCカードスロット経由で転送する。しかし、パソコンの背面に回り込んでモデムケーブルをシリアル端子からはずし、カメラにつなぎかえるのは結構面倒だし、PCカードスロットが装備されたデスクトップパソコンはきわめて少ない。

しかし、本機は3.5インチフロッピーディスクに画像を記録するので、ほとんどのパソコンでそのまま簡単に読み書きできるし、メディアの価格も安いので「記録メディア=最終保存メディア」にもなる。撮影したフロッピーをそのまま人にあげることで可能だ。もっとも、その代償としてボディサイズはかなり巨大になってしまい、デジタルカメラというよりビデオカメラ並みの大きさだ。しかし、MVC-FD5はともかく、上位機種のMVC-FD7は、35mmカメラ換算で40~400mm相当の10倍ズーム+AFを搭載しているの、ほかのデジタルカメラに撮れない画像を捉えることが可能だ。たとえば運動会では、ほかの普及型デジタルカメラはほとんど無力だが、MVC-FD7なら遠くの被写体でも「ドアップ」で撮影できる。この10倍ズーム+AFのアドバンテージを考えれば、このボディサイズでも十分魅力ある存在だ。

というネーミングを聞いて、十数年前の亡霊が甦ったような気がした。しかし、実際にDigital Mavicaを使ってみると、確かにボディが巨大でスマートさに欠けるのだが、妙に楽しく撮影できるのだ。見かけほど重くなく、持ち歩いても疲れないうし、シャッターボタンの位置も手にジャストフィットする。液晶のプレビューもなめらかだし、こまめに電源をON/OFFしなくてもバッテリーの持ちはよい。

画像の記録には10秒ほどかかるものの、フロッピーに書き込む振動が手に伝わってくると妙に心がなごむし、JPEGフォーマットで記録されるので、データ変換も不要だ。そして、なんといっても最大の魅力は、光学10倍のズームレンズだ。35mmカメラ換算で400mm相当の超望遠撮影ができるので、これまで撮りたくても撮れなかった画像にチャレンジできるのだ。

ただ、本機で不満なのは、シャッターを切った際に画面がフリーズしないので、どんな絵が撮れたか再生するまでわからないこと。それと、画像ファイル名は数字の連番になっているのだが、フロッピーを交換するとこの連番がリセットされてしまうので、どのフロッピーも同じファイル名がウジャウジャ生じてしまうことだ。ビデオ出力が付いていないのもちょっと残念だ。

▶ 通常の撮影ではフィールド記録が基本

ところで、本機のパーツの大半は、ビデオカメラのパーツを流用して作られていて、AFもビデオカメラと同じように、常時ピント合わせを行うタイプだ。撮像素子もビデオカメラ用の41万画素CCDで、静物撮影ではフレームモード(全画素読み出し)で記録できるが、フィールドモードでは情報量が半分になる。フレームモードに比べると、フィールドモードでは垂直解像度が半分になってしまうが、補間処理によりそれほどジャギーは目立たない。ただし、コントラストの高い部分だけはかなりギザギザになってしまうが、半分に縮小すれば消えてしまうので、インターネットのホームページにはほとんど問題ない。むしろ、今まで撮れなかった10倍ズームの迫力ある画像の魅力のほうが大きいはずだ。(伊達淳一)

試用レポート

▶ 最大の魅力は10倍ズームの超望遠撮影

Digital Mavicaを初めて見たときは、「何で今さらこんなデジタルカメラを出すのかなあ?」という否定的な印象が強かった。それに加えてMavica

MVC-FD7

- 発売元 ソニー株式会社
- 価格 88,000円
- 問い合わせ 03-5448-3311
- URL <http://www.sony.co.jp/ProductsPark/Consumer/DSC/Mavica/index-j.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp